

平成29年度 防衛大学校入校式
来賓代表祝辞

防衛大学校本科第65期生を始め、理工学研究科第56期前期・第17期後期課程及び総合安全保障研究科第21期前期・第9期後期課程の諸君、また、遠く祖国を離れて入校されたカンボジア王国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国、ミャンマー連邦共和国、フィリピン共和国、大韓民国、タイ王国、東ティモール民主共和国、ベトナム社会主義共和国からの留学生の諸君、入校まことに、おめでとうございます。

諸君が見事難関を突破し、晴れて入校の栄冠を勝ち取られたことに、敬意を表しますとともに、この日を待ち望んでおられたご家族の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

本科学生の諸君は、今、希望と高揚感、そして一抹の不安を抱きつつ、この式に臨んでいることと思います。

今日からは、防衛大学校職員が、そして先輩学生が温かく、時には厳しく諸君を導きます。これからの生活は、諸君の人生にとり、かけがえのない素晴らしい充実した4年間になることでしょう。どうか安心してください。ここ小原台に集う同期生とともに、青春を謳歌し、情熱を燃やして、これからの学生生活を送ってもらいたいと思います。

本日は、陸・海・空自衛隊を代表し、また、本校の卒業生として、本科学学生諸君に二点申し上げたいと思います。

まず、第一点目は「防大の諸君が身に着けるべき資質・識能」に関することです。

自衛隊は、昭和29年に発足し、今年で60有余年が過ぎました。この間、自衛隊は、我が国の領土、領海、領空を守り、我が国の平和と独立、国民の安心・安全を守るため、日夜、黙々と職務を遂行してきました。

今や、自衛隊は我が国の平和と独立を守り、国民の生命と財産を守る我が国の最終的な力として、国民から高い評価を得る時代になりました。また、国外においても、その実力、信頼性は広く認められています。

これも諸君の先輩が、高い使命感と強い責任感を持って、これまで自衛隊を率いてきたからだと言っても過言ではありません。諸君の先輩が、自衛隊を取り巻

く環境が如何に厳しくても、与えられた任務を完遂し、国民の負託に応えることができたのは、防衛大学校で身に付けた資質・識能があったからです。

諸君は、本日ここに、防衛大学校学生として宣誓を行い、学生生活がスタートしました。

防衛大学校は、将来自衛隊の幹部自衛官として必要な識見及び能力を与え、かつ、進展性のある資質を与える場であります。この4年間の教育は、諸君の視野を広げ、科学的な思考力を養い、豊かな人間性を育ててくれることでしょう。

将来、諸君が直面する国際情勢は更に複雑、多様化するとともに、我が国を取り巻く安全保障環境は、益々厳しさを増すことが予想されます。その中で、自衛隊に対する期待は更に高くなることでしょう。

国民の負託に応えるため、どうか、國分学校長の指導の下、防衛大学校学生たる名誉と責任を自覚し、常に徳操を養い、心身を鍛え、知識を涵養し、全力を尽くして学業に励み、将来、自衛隊を率いる幹部自衛官となるための資質と識能を身につけて欲しいと思います。

第二点目は、「統合運用と同期の絆」についてであります。

自衛隊は、平成18年に陸・海・空自衛隊を一体的に運用するため統合運用態勢に移行しました。

昨年の熊本地震災害派遣における統合任務部隊の編成に見られるように、今や、自衛隊が行う全ての運用は、統合を基本とする時代になりました。

この瞬間においても、全国各地で、あらゆる危機に備えるため、陸・海・空自衛隊は相互に緊密な連携をとり、即応態勢を維持するとともに、南西地域を始めとする我が国周辺海空域で、警戒監視及び対領空侵犯措置の任務に従事しております。

海外においても、陸・海・空自衛隊が協力して、国際協調主義に基づく積極的平和主義の理念の下、南スーダン国連平和協力業務、アデン湾における海賊対処行動を始めとする国際平和協力活動を遂行しています。

今後、自衛隊の任務を迅速かつ効果的に、より実効性を持って遂行していくためには、統合運用態勢を更に強化していくことが重要であると認識しています。

防衛大学校は、陸・海・空自衛隊の幹部自衛官となるべき者が一同に集っており、世界に誇る素晴らしい教育機関であります。

諸君は、これからの4年間を同期生とともに、ここ小原台において苦楽をともにし、切磋琢磨しあい、同期としての強い信頼の絆を築いていくことでしょう。

この同期の絆が、将来の統合運用を更に強化するために欠かせない基礎となるものであります。大いに、勉学の場や学生舎、さらには、交友会活動などを通じて、「同期の絆」を育んでもらいたいと思います。

留学生の諸君、諸君は、一人一人が貴国にとっての「宝」であり、日本にとっての「かけがえのない友人」であります。これからの4年間、日本の学生諸君とともに真の友情を築き、将来にわたり、祖国と日本との懸け橋になられんことを期待しています。

次に、理工学及び総合安全保障研究科学生の諸君に申し上げます。

諸君がこれから学ぶ、科学技術及び安全保障に関する専門的知識・技能は、国の防衛を全うするために必要不可欠のものであります。科学技術は日々進化し、安全保障環境も一層厳しさを増しています。自衛隊はこの変化に遅れをとることは許されません。

諸君は、それぞれの専門分野において最先端の知識、動向を吸収し、現防衛計画の大綱で示された統合機動防衛力の具現のため、我が国の防衛に資する装備品や安全保障戦略を生み出すという気概をもって、日々研鑽を積んでもらいたいと思います。

結びに、ご子息・ご息女が今日の佳き日を迎えられたご家族の皆様に対しまして、重ねてお慶びを申し上げますとともに、防衛大学校の今後益々のご発展と、将来の自衛隊を担う学生諸君が、今日の澁刺とした初心を忘れず、今後、大いに伸展されんことを心から御祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

平成29年4月5日

統合幕僚副長 陸将 住田 和明